

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和4年度 第3回人材確保・育成部会 会議録

日時 令和4年10月27日(木) 10:00~11:30

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 14名

乙訓障がい者基幹相談支援センター、向日市社協障がい者地域生活支援センター、こらぼねっと相談支援センター、大山崎町社会福祉協議会、第2乙訓ひまわり園、障がい福祉センターあらぐさ、障害者支援施設晨光苑、乙訓の里、乙訓保健所福祉課、長岡京市障がい福祉課、大山崎町福祉課

欠席者 3名

長岡京市商工会、向日市障がい者支援課(2名)

事務局 3名

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・京都保専就職ガイダンス実施要項(案)
- ・参考資料:インターンシップアンケート(回収)
- ・新任職員連続講座まとめ
- ・人材育成に携わる圏域法人職員の交流会開催要項
- ・京都新聞記事

会議概要

1 見学・職員体験ちらし配布後について

・進捗状況

事務局 ・先生を通じて学生1名からあらぐさへ体験希望者があった。

部会長 ・9月25日に四条烏丸の産業会館で南部就職フェアがあった。ハートピアにも入らせてもらえるようお願いしている。府社協では配付していただいているが連絡はないようだ。

委員 ・あらぐさの体験希望者は、福祉業界にこだわらず、幅広く見たいということだった。法人概要の説明と通所事業所を見ていただいた。先生といっしょに来られていた。

部会長 ・部会では入り口支援をして、たくさんの人に関心をもってほしいと思う。

・京都保育福祉専門学院での就職ガイダンス打合せ

- 部会長 ・夏のインターンシップ後に学生を集めて学習会をしているが、みなさん行く前よりいい表情をしているので、体験はとても意味があると改めて感じている。
- ・インターンシップ中に、ほったらかしの状況で何をしたらいいかわからないのが、学生にとって負担で、一番マイナスのイメージになるようだ。以前はとりあえず現場に入って見て学んでと思っていたが、今は見学のつもりで付いて回って説明している。もし体験するならスタッフが寄り添いながら短時間利用者さんと接する等、手厚い方が最初のコンタクトとしてはいい。
- ・興味をもつきっかけは直接的なアプローチが圧倒的に強いということなので、京都保育福祉専門学院（以後、保専と記載）への就職ガイダンスの話にうつりたい。
- 事務局 ・10月17日に部会長、副部会長、事務局で京都保専へ打合せに行き、実施要項を考えた。
- ・「京都保専就職ガイダンス実施要項（案）」の説明。
- ・実施日時は1月12日で決定となった。
- 部会長 ・非常に前向きに協力をしていただけてありがたい。
- ・地域的に乙訓は近いのに就職や実習の視野に入っていないのが意外だった。宇治や城陽には行っているようだ。近いことはアピールポイントになると思う。
- 委員 ・こらばは、理事長が保専の授業を一コマもっているので学生と接している。
- 部会長 ・乙訓の児童の事業所の求人は掲示してあった。
- ・何か質問等あるだろうか。大山崎社協も参加したいなどあるだろうか。
- 委員 ・保育士は社協には該当しないと思う。
- 部会長 ・福祉事業所へも実習には行くのでそちらで目覚める人もいるらしい。
- 委員 ・参加法人はちらしにのっているところだろうか。私の法人だけ児童対象だが、保育士育成の学校なので障害福祉分野について学生はどう感じるだろうか。
- 事務局 ・2回生の実習時に会う人によって福祉に興味をもつ人もいるかもしれない。
- 部会長 ・学生の進路はまだ定まっていない時期なので、あえて障がい福祉サービス事業所を入れることで視野が広がるのではないか。児童分野はもともと関心があると思う。
- 事務局 ・この就職ガイダンスは今回はじめてなので学生の反応はわからない。まずはやってみたい。
- 委員 ・保専からはどんな話をしてほしいなど要望はあるのだろうか。これから具体的な内容を詰める打合せはあるのか。
- 事務局 ・8月にちらし配布をお願いに行った時に、「学生はちらしを見て次のステップに進むことは難しいので直接アピールをした方がよい、良ければ授業で就職ガイダンスという形で直接話をしてみてもどうか」とお話をいただいた。
- ・乙訓は保専と近く、阪急とJRで気軽に行ける範囲にある事業所なので乙訓を知ってもらいたい。
- 部会長 ・保育士の授業課程に障害の科目もあるので就職先の視野を広げるのは学校にとってもメリットがあると思う。
- ・参加事業所からの当日参加人数はどれぐらいだろうか。
- 事務局 ・広い講堂なので1名でも2名でもいい。2名のうちの1人は学生と年が近い方が学生にとっていいのではないか。

- 部会長 ・学校からそのような要望はあるのだろうか。
- 事務局 ・それはないが、先ほどのアンケートから読み解くとブースに来てもらうには学生と年の近い方がいた方がいいように思う。
- 委員 ・体験につなげることが目的になるが、個別相談の時に日程までおさえてもいいのだろうか。
- 部会長 ・まだ学校と打ち合わせていないので、どこまでしてよいかわからない。
- 委員 ・就職フェアなどでもその場で日時まで決めないとなかなかつながらない状況なので。
- 部会長 ・2年課程の1回生の1月という時期である。就活はまだ解禁されていないので微妙だ。
- 事務局 ・1月27日が後期試験の最終日でそこから春休みだそうだ。その期間をうまく利用して体験などできるといいのだが。それをしてもいいかどうか。
- 部会長 ・そうすると学生の個人情報をとる必要が出てくる。
- 委員 ・どこまで話してよいか。連絡を取れるところまでしてもいいのか。
- 部会長 ・あまりやりすぎると来年はないかもしれない。
- 事務局 ・学院側に確認する。
- 委員 ・個人情報を取れないなら、体験会日時を設定して、「来れたら来てね」ならいいかもしれない。
- 委員 ・保専の学生の男女比率はどれぐらいか。
- 部会長 ・ほとんど女子だそうだ。打合せに行った時は実習中で誰もいなかった。
- 部会長 ・12月中に事務局と学校との打合せをしようと思う。その後に参加事業所との打合せをするか、どちらが先か。
- 事務局 ・まずは参加事業所からの質問をとりまとめて、学校側と打合せをして、その後もう1回参加事業所と打合せをしたい。
- 部会長 ・参加事業所と最終の打合せ日は、1月に入るかもしれないが、また調整したい。

2 新任職員連続講座のまとめ

- 副部会長 ・「新任職員連続講座まとめ」資料の説明。
- 部会長 ・3ページの上から2番目に「少し分かりにくかった。」という意見があるが、これが気になった。
- 副部会長 ・講師の先生からも制度の説明ばかりなので仕方がないと言われていたが、配慮したい。
- 部会長 ・児童事業所からの参加が多い。成人の方はなかなか伸びないがどうだろうか。
- 委員 ・勤務交代で参加が難しい。曜日設定に関わらず人手不足でだせない。関心がないのではなく残念に思っている。
- 委員 ・興味があったが参加者を出せなかった。オンデマンドでまたみたいと思っている。
- 委員 ・参加した職員から伝えたが、生の声がやはり聞きたかった。16時から送迎で車両を14台動かして金曜日だけ別の支援も組んでいる。
- 委員 ・新任職員対象だったが、新任には難しく中堅向きの内容だったように思う。当事者のお母さんの話はよかった。
- 委員 ・新任職員がいないので今年はない。
- 委員 ・児童事業所の参加が多いと思った。他地域から新規参入の事業所にとっては、乙訓を知る機会になってよかったのではないかと。放デイ事業所は増加傾向で、利用者を回してほしいと相談員に

言われるところもある。熱心に講座に参加したいと思ってくれるのはうれしい。

委員

・新任職員はいないが、初心の気持ちをとりにどす心持ちで参加した。
・児童発達支援プロジェクトで放デイを回っているが、大阪などからやってきて立ち上げたところなど新規参入が多いと感じている。そういったところには3回目の乙訓の事業所を知るのはよかった。

委員

・なかなか参加する機会がない。

委員

・今回は新任職員がいなかったが、また入って来たら参加してもらおうと思う。

副部会長

・相談支援専門員は「ぜひいきたい」と言っていたが参加できなかった。内容もよかったと思う。

部会長

・コロナが流行して直前まで職員を出せるかどうかわからなかった。
・新規参入の事業所に乙訓を知ってもらう機会として有効だったという意見があったが、それを目的にすると、ずれていくと思う。乙訓で働くことを意識して横のつながりを持ち、定着してもらうことを目的としたい。新規事業所に対する講座も必要だと思うのでまた別の設定があってもいいと思う。

委員

・児童の通所支援事業所連絡会で検討されていると思う。自立支援協議会の研修に行こうと思える事業所がこれだけあってうれしく思った。

委員

・保健所でも新規事業所の申請を多く受けているが、他の事業所とのつながりを持とうと思っている事業所がたくさんあって安心した部分がある。

部会長

・横のつながりができて喜ばしいと受けとめたい。
・オンデマンドの配信はどうなっているだろうか。

副部会長

・私は操作に詳しくないので他の人を頼りたいが、撮り方も難しく、受講者が写り込んでいたりするので相談しながら進めたい。

事務局

・たくさんの方に聞いていただきたいという気持ちはあるが、登壇者から話した内容が一人歩きするのがこわいという意見がある。教育委員会からは打合せの段階から配信はしないことになっている。

委員

・録画したものを講師に確認した上で限定配信とすればいいのだろうか。

事務局

・法人にも確認が必要なので、どのように編集するかが難しい。

副部会長

・資料の掲載も控えてほしいと言われるところもあった。

委員

・質疑応答部分は無理かも知れない。

部会長

・ハードルが高いようなので検討したい。

事務局

・令和5年度も人材・育成部会の中で続けていくのか。基幹相談支援センターに引き継ぐという話もあった。

部会長

・ベースはできているように思う。自立支援協議会は必要なことを検討協議して、道筋をつくって、然るべきところに渡して、次また必要な課題を検討する場なので、いつまでもこの事業を部会がやるべきではないという話もしている。流れとしては、基幹相談支援センターに移して、部会として来年度はバックアップしたいが、どうだろうか。次年度以降にはそのようにしたい。

3 人材育成に携わる圏域法人職員の交流会について

事務局

・メール添付の配信で募集している。返事が非常に少ない状況なので、通所連絡会にも配信をお

願っている。当初希望が多くなると思ったので、各事業所参加はひとりでとお願いしたが、状況をみて複数でのご連絡するかもしれない。

- 部会長 ・人材育成の担当者とオブザーバーとしての参加もよいということである。部会委員は参加でいいだろうか。持ち帰って検討し参加申込書を提出してほしい。
- ・はじめての機会となるが有意義な場になると思う。積極的な参加をお願いしたい。

4 その他

委員 ・京都府の障がい福祉サービスの人材育成部会で検討されている話だが、毎年、障がい福祉サービス事業所向けの研修講師を推薦していただいて登録している。今年度も乙訓圏域で最低2名の登録をお願いしたい。圏域で中心となりリーダーシップを発揮できる方を想定している。運営委員会でも言っているが、すべての法人から出られているわけでもないので、持ち帰って検討いただきたい。乙訓で10名弱登録していただいているが、もう少し推薦していただきたい。

事務局 ・同じ法人ばかりにお世話になれないので、できれば違うところをお願いしたい。現在、てくてく1名、こらぼねっと2名、向陵会2名、乙福2名、長岡京市社協1名、大山崎社協1名、あらぐさ1名に出ている。まだ登録されていない法人で検討していただいて事務局までご連絡願いたい。

委員 ・推薦は自立支援協議会と市町にお願いしているので、すべての事業所に依頼しているわけではない。

事務局 ・12月16日がしめきりで、それまでに書類をそろえる必要があるので12月初旬にはお願いしたい。

部会長 ・作成したチラシについて、京都新聞に9月25日に取り上げていただいたので記事をまたご覧いただきたい。

今後の会議予定

第4回 1月20日(金) 13:30 保健所で

第5回 2月20日(月) 13:30 乙福で